
イエーナ戦記

Quickening

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イエーナ戦記

【Nコード】

N7818X

【作者名】

Quickening

【あらすじ】

皇国歴731年一人の子供の運命を変えた契約が地下牢の更に奥の牢で結ばれる。やがてその契約は世界をも変えていく………

処女作なので暖かい目で見ていただけると助かります。又アドバイスもください！！

第一章

皇国暦731年……ブリタニア大陸と呼ばれる土地をめぐる国家同士が戦争を続けている世界……

そんな内のある国で世界を変える契約が結ばれる。

場所は地下牢の更に奥の牢屋で手足を鎖で繋がれ目隠しされている若い女性、女性は妊娠しており食事すら満足に与えられておらず衰弱しきっていた。

子供に向けて声をかけるが彼女の一言一言が暗闇に消えていく。しかし、彼女は子供の運命を変えてしまふ言葉を口にする。

「あなただけは必ず守ってあげる。例え悪魔と契約してでも!」

と口にする、

「その願い叶えよう。」

頭に直接響いてくるような声が聞こえてきた。それと同時に目隠しが外れ目の前にスーツを着た美男子が立っていた。牢屋の扉を開けずに入ってきたこの男を不安と期待をにじませながら女性はみている。そんな眼差しを受けた男は

「さあ、あなたの願いを言ってみなさい。」

尚も尋ねてくる男に

「お腹………を………助けて!」

とだけいうと事切れてしまう、

「願いを叶えましょう。ただしその子は私の子供として別の世界で生まれてもらいます。」……………

――

「よみちゃん！よみちゃん！」

「うーん……………」

「よみちゃんおはようー！」

「明日香？それに今のは？夢？」

「夢がどうかしたの？」

「いや…何でもない。」

やけにはつきりとした夢だったな、はつきりと覚えてる夢なんて…そんな事をかんがえていると明日香は顔を近づけてきた。

「うわあ！？」

「大丈夫？」

「うん、大丈夫。」

「じゃあ早く起きて！学校遅刻しちゃうよー！」

といわれながら起こされた俺は気だるそうに立ち上がると着替えなどを済ませて学校へと向かった。

「神戸黄泉《かみとよみ》」

担任から呼ばれた俺は返事をして机に突っ伏す。

「本村明日香」

幼馴染みの名前も聞こえてきたがそのまま眠りについてしまう。
俺は夢の中で誰かに呼ばれている気がして目を開くとそこは学校の
教室ではなく知らない部屋だった。

「黄泉様、お待ちしておりました。」

部屋には三人いて全員頭を下げている。その中の一人の女性が何か
高貴な人を拝むように顔をあげて言う。

「ここは…？俺は確か学校にいたはずだけど？」

俺の言葉に女性は

「ここはブリタニア大陸のヴェローナ帝国と呼ばれている国の民
家です。安全の為此のような場所への召喚をお許してください。」

「ブリタニア？ヴェローナ帝国？」

「はい。ここは黄泉様のいた世界とは異なる世界、異世界でござい
ます。そして私達は、あるお方の命にてヨミ様の臣下として遣わさ
れました。」

「まず、私はライーニヤと言います。それから後ろに控えておるの
がヴィラとノヴァでございます。」

「わたくしがヴィラでございます、黄泉様、これから誠心誠意お仕
え致します！」

「わたしがノヴァでございます、黄泉様、お姉ちゃん共々よろしく
ね！！」

「こら！！ノヴァ！黄泉様失礼致しました。」

「では、ヴィラ！ノヴァ！準備を始めて。」

突然異世界へ来たと言われて混乱しているとライーニヤに促された

ヴィラとノヴァというこちらも女性の二人が俺の服を脱がしにかかる。

「え？何を？」

抵抗も虚しく制服を脱がされこちらの世界の服へと着替えさせられた。

それは西洋の騎士に似た鎧とマントで不思議と重さは感じられなかった。

「重くないな。」

「それは黄泉様の為に作られた鎧で色々な魔法陣が刻まれていて、その内の一つ軽量魔法が刻まれています。その為重さを感じないのです。」

「魔法？こちらの世界には魔法があるのか！でも魔法ってどんなものだ？」

「魔法とは体内にある魔力を消費することによって森羅万象の力を扱うことができることを言います、黄泉様にも魔力はありますよ。今は少しだけです。」

「魔力が少ししかないので、苦勞すると思いますが、これからヨミ様にはこちらの世界で生きていただきます」

「こちらの世…」

「ライーニヤ様周囲を囲まれました。」

ヴィラは俺の言葉を遮ると周りを見回しながら警戒している。確かに周囲からも凄惨な殺気を感じ、一人や二人ではなく二十、三十人ぐらいいると感じる。

周囲を囲んでいる者はこちらの殺気をよんだのか

「我々は異世界の女をてにいれている、殺されたくなければ、その男を渡してもらおう。」

と言うと目以外をすべて布で隠した二人の男と二人に押さえつけられながらナイフを首筋に当てられた明日香が現れた。

俺は動揺を隠せずに助けようと動き出すがライーニヤに止められる。

「ライー…」

ライーニヤに言葉を制されると周りを見ると言わんばかりの視線受け見回すと周囲を囲んでいる者の気配が消えていた。

ヴィラとノヴァがいらないことに気付き周りを見渡し明日香の方を見ると男二人は状況が飲み込めず動揺しているとゆう顔でいつの間にかヴィラとノヴァに取り押さえられていた。

俺も状況が飲み込めず言葉を出せずにいるとライーニヤは然も当たり前のように二人に近づいて行くと尋問を開始する。

「誰の命令でヨミ様を……くっ!？」

しかし、開始すぐにどこから現れたのかナイフがヴィラとノヴァを掠めて捕らえられていた男二人の背中へと突き刺さる。ヴィラとノヴァは服を掠めたただだが男二人は心臓にナイフが刺さり絶命していた。

飛んできた方向に目をやると

部屋の入り口から一人の男が現れる。現れた男は顔を隠しておらず、赤髪の頬に大きな傷があり不適な笑みを浮かべている。

「貴様は何者だ？」

「ヴェローナ帝国特務隊隊長ガルダスと申します。この度はそちらの男を引き渡していただくために参りました。」

「俺を？なぜ？」

「まだあなたが何者が聞いてはおらないのですか？」

「何者つて、俺は普通の高校生だ！！」

「高校生？はて？聞いたことのない職業ですが……」

「まあ、よろしい！どうやら言葉では来ていただけないようなので力づくで来ていただきましょう！」

そう言うとガルダスは目にも留らぬ速さで黄泉へとナイフを飛ばす。さすがのライーニヤやヴィラ達も反応出来ずナイフが胸へ刺さると思った瞬間誰かが黄泉を庇うようにナイフの盾になるとそのまま倒れこむ。

「あ……す……か……！??？」

「よみ………ん………怪我は……ない？」

「ああ」

明日香の背中にナイフが刺さり止めどなく血が溢れでてる。どうすることも出来ずただ泣くことしかできない。

「よかった……、最後によみちゃんの役に立てたんだね？」

「俺の為なんか命を投げ出すなよ！！」

「ううん、よみちゃんの為だからこそだよ。私よみちゃんが大好きだから………くうっ？がはあ！！??？」

「明日香！？明日香！！??？あすかああああ！！！！????？」

明日香は口から大量の血を吐くとそのまま息をひきとった。
黄泉は大泣きすると突然体が光りだしと思ったら大爆発が起きた。
ライーニヤ達黄泉の臣下は何とか防いだがガルダスは体がボロボロ
となり、戦闘継続は不可能な状態だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7818x/>

イエーナ戦記

2011年10月21日03時04分発行